

11. アートセンター画楽

活動分野	文化芸術	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神・発達	年齢	65歳未満
活動地域	高知県	実施主体 【企業】	名称:有限会社 ファクトリー アートセンター画楽 住所:高知県高知市はりまや町3丁目16-8 電話:088-878-8765 fax:088-878-8685 URL :http://www.garaku-ch.org		

活動概要

アートセンター画楽は、高知市のデザイン事務所「ファクトリー」が、福祉サービス(生活環境のデザイン)の拠点として運営しており、2004年から、障害のある人が自由に表現できる場、「楽しむ力」を持ち続けるための場として活動している。

画楽でのアート活動を通じて、障害のある人の存在を良い形でアピールし、あるべき共生社会について考えるきっかけを提供したいと考えている。

画楽は、高知市の中でも観光客の往来の多い中心部に位置しており、高知駅とホテルを行き来する県外の人も立ち寄り、活動を知るきっかけとなっている。



< 活動内容 >

・アートセンター画楽

表現活動を通じて、障害のある人たちが本来の自分になることや、社会全体が美しい空間になることを願い、水曜日と土曜日以外の毎日、障害のある人となない人が同じ場で創作に専念するアートプログラムを実施しており、一人ひとりがそれぞれの目標を持って、自分のペース、スタイルで制作に取り組んでいる。

また、活動に賛同してくれた作家ら呼び、月に一度「アートルーム」というワークショップを開催し、障害のある人もない人も共に同じテーマで創作に取り組んでいる。

利用料: 障害のある人 昼食、おやつ、画材代などの実費のみ

障害のない人 1回 1500円(謝礼・会場費・材料代を含む)

利用チケットカード(11枚綴り/15000円)を購入

・児童デイサービスセンターとして主に発達障害のある児童生徒の受入れ

4歳から高校生までの主に発達障害のある幅広い年齢の子どもにセンターを開放し、創作活動を楽しんでもらっている。毎週土曜日に開催しており、その日は画楽がとても賑やかになる。

絵や工作などにもともと興味があった子どもたちやここに来て興味を持つようになった子どもたちが集まり、スタッフから発達段階に応じた個別支援を受けながら作品づくりに取り組み、それぞれの世界を拓けている。

イベント

・アートマーケット(年2回)

新作発表会を兼ねたアートマーケットを年2回開催している。

画楽で生まれた作品を基にして、デザイナーが販売用にアートグッズを制作し販売する。地域の多くの人々が来場し、毎回楽しみにしている固定ファンも増えてきている。



・アートキャンプ(年1回)

センターを離れ、自然の中で様々な創作活動を行うアートキャンプを毎年実施している。

2009年は、仁淀川町下名野川の廃校となった小学校を再生した山村自然楽校で実施した。

野外スケッチをしたり、作家を招いて熱気球や本の制作を行い、また、蕎麦打ちに挑戦するなど、障害の有無に関わらず、みんなで創作することを楽しんでいる。



・はりまやナイト(年2回)

地域と交流し画楽の活動を広く知ってもらうことを目的に、年に2回イベントを開催している。

センターで画楽グッズの販売を行うほか、当日の朝に仕入れてきた新鮮なナスやキュウリ、スイカなどを販売する市を開き、地域の沢山の人が訪れ楽しんでいる。

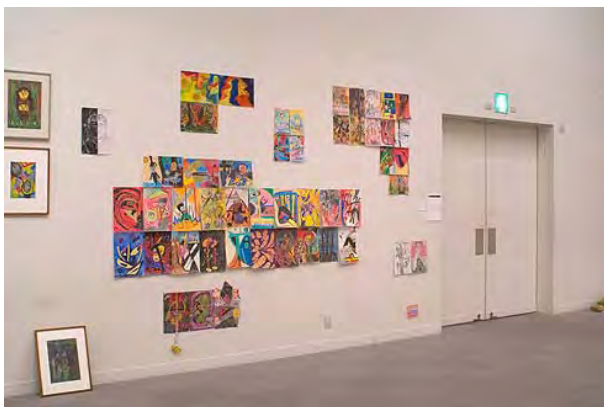
また、地域の飲食店にも参加してもらっており、周辺には小さな屋台村が出現する。屋台村では外国から来た人が民族音楽を演奏することも大いに盛り上がる。



・画楽プロジェクト(2年に1回)

画楽で制作した作品を発表する場として、2007年より2年に1回のビエンナーレ方式で開催している。障害のある人の作品のほか、この活動に共感してくれた県内外の作家の作品も発表し、感動を共有している。

作品の制作はもとより、会場作りや、当日の受付など障害のある人も能力やできることを発揮して、参加者全員で作り上げている。



活動を始めた背景・経緯

2004年に画楽を立ち上げるまでは、行政コンサルタント、イベント会社として、障害のある人を対象としたアートワークショップを開催したり、特別支援学級などで出前型のワークショップを行ったり、行政からの委託で障害者アートの展覧会を開催したりしていた。

そのように障害者アートに関わる中でエイブル・アート・ジャパンの活動と出会い高知県でエイブル・アート・フォーラムを開催。そして、障害のある人の創作活動をサポートできる恒常的な場所の必要性を感じてアートセンター画楽の開設に至った。

活動目的

障害のある人の単なる余暇支援の場ではなく、コミュニケーションに障害のある人たちと社会との通訳を果たすことによって、彼等のユニークさを面白いと賛同の声を持って迎え入れてもらえるような仲立ちをする場となることを目指している。

障害のある人たちのことを知り、理解することが、障害のない人がよりよく生きていくことにもつながっていると考えながら活動を展開しており、画楽が、障害のある人の日中活動の場、毎日出入りすることができる場の一つとなることによって、彼らの創作活動を継続的にサポートしていきたいと考えている。

活動の成果又は効果

- ・活動を通じて障害のある人が自信を持ち自発性を発揮できるようになってきた。特に発達障害ある児童生徒に見られていた落ち着きのない行動が、自分の興味のある課題での創作活動を行うことにより少なくなってきた。
- ・地域の住民や喫茶店、美容院などに活動に共感し理解してくれる人や店が増えてきており、年2回の地域のお祭り「はりまやナイト」を共同で開催できるようになってきた。
- ・今までに2回開催した画楽プロジェクトを通じて、障害のある作家のファンが増えてきた。
- ・全国組織であるエイブル・アート・カンパニーの登録アーティストを輩出するようになった。

活動を継続する上で工夫した点

地域ぐるみで活動を進めるように心がけている。

また、いつも「面白い」「楽しい」をキーワードに活動を展開している。

イベントを企画・運営する際には、最初は事務局スタッフができるだけ裏方仕事をして、参加メンバーには成功イメージと達成感を味わってもらう。その後徐々に参加メンバーを裏方仕事にも巻き込んでいくよう工夫をしている。

活動を継続する上での課題

活動の運営資金については、企業の事業活動の利益を充て、足りない場合には銀行から借入れをしてまかなうという方法をとっているが、常に資金調達についての不安が付きまわっている。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

障害のあるメンバーのそれぞれの得意とするスキルがはっきりと分かってきたので、地域の福祉拠点として、それぞれの個性を活かしながら働くことのできる介護保険サービス(小規模多機能サービスを想定)事業所を展開したいと考えている。

また、障害のある人たちが画楽で制作した作品を基にしてTシャツやポストカードなど様々な商品を生産し、販売することで、彼らの作り出す新しい価値を換金する仕組みを作っていきたい。そのことが障害のある人たちの自立にもつながることになると考えている。

ただし、これらの取組みは一地方都市だけで単独で行っても効果を生み出すことは困難なので、この画楽の活動をどんどん県外でも展開していきたいと考えている。



実施体制

常勤スタッフ3名、非常勤スタッフ2名

キーワード

アート、楽しい、面白い

12. 佐賀市特別支援教育部会 児童・生徒作品展

活動分野	文化芸術	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・発達・院内学級	年齢	18歳未満
活動地域	佐賀県佐賀市	実施主体 【公立学校】	名称:佐賀市特別支援教育研究会 住所:佐賀県佐賀市大和町大字尼寺 1439 番地(会長・事務局校) 電話:0952-62-2128 fax:0952-51-2080 URL :http://www2.saga-ed.jp/school/edq10601		

活動概要

作品展示を通して、障害のある人とない人との交流を図っている。
 障害のある人もない人も誰でも気軽に立ち寄れる作品展にすることによって、多くの市民ができるだけ自然に障害のある人のことを理解し、また、お互いの頑張りを知ることによって互いの良さを知り理解を深め、共生社会を築くことができるように心がけている。

出品されている作品は、各学校の教育活動の中で、児童・生徒が一人一人の特性に応じた目当てを持って、教師の支援を受けながら精一杯制作したものである。多くは、特別支援学級の中で制作したものであるが、中には校内での共同学習の中で取り組んだ作品もある。



- ・出品作品:絵画、はり絵、立体作品(紙工作、紙粘土、彫刻)、編みかご、カレンダー、習字
- ・毎年2月又は3月に開催

活動を始めた背景・経緯

展示会が始まった時期は不明であるが、佐賀市における特別支援教育の状況を広く市民に啓蒙するために始まった。

活動目的

佐賀市の公立小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒の作品を展示することにより、相互の交流を図るとともに、広く佐賀市民に学習の一端を知らせ、特別支援教育への理解の推進を図る。

児童・生徒の手先などの技能訓練の向上だけでなく学習面での向上を図る。

お互いの作品を鑑賞し合うことで、意欲の向上とともにやり遂げた喜びなどの成就感を持つことにより、「生きる力」の基礎を培う。



活動の成果又は効果

多くのメッセージには、子ども達の作品から得た感動の言葉や自分も頑張りたいということが書かれており、お互いの励みになっていることがよく分かる内容のものであった。

メッセージをもらった子ども達や教職員も大いに励みになり、年々参加者が増え、去年は5年前の約2倍の47校 222名 652点の作品が集まった。

毎年楽しみにしている佐賀市民も増えてきた。

活動を継続する上で工夫した点

- ・特別支援教育研究会の定例行事として毎年度2、3月に位置づけている。
- ・手作りパンフレットを作成し、各家庭はもちろん関係機関にも配布し周知している。
- ・市立図書館などの多くのギャラリーが集まりやすい公的な機関において展示をしている。
- ・来場者の感想や励ましを書き込むノートや短冊を置いて紙上でも交流を図っている。
- ・前年度の反省をもとに1年ごとにより良いものになるようにと改善に努めている。



活動を継続する上での課題

- ・年々参加する学校が増えてきている中で、展示スペースが限られているので、内容(作品の大きさ、展示数)を検討する必要がある。
- ・共生社会の実現を目指す大変良い機会であるので、もっと多くの人(市民、企業等)に知ってもらう広報が必要と思われる。
- ・他の利用団体等もあり、展示期間が十分に取れるような展示場所が確保できない。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

- ・展示場所に、特別支援教育を知ってもらうためのパネル展示を行う。

実施体制

- ・佐賀市特別支援教育担当教諭等 小学校 74人 中学校 37人 計 111人
- ・佐賀市教育委員会の特別支援教育担当指導主事の協力により実施

キーワード

自立、ふれあい

